

3501 住江織物

吉川 一三 (ヨシカワ イチゾウ)

住江織物株式会社社長

主要事業で手がたい成長を維持し、再生エネルギー分野にも進出

◆2014年5月期第2四半期決算概要

連結の業績については、売上高 439 億 28 百万円(前年同期 391 億 63 百万円、期初計画比 12.2%増)、営業利益 15 億 51 百万円(同 9 億 23 百万円、同 67.9%増)、経常利益 18 億 98 百万円(同 10 億 87 百万円、74.6%増)、当期純利益 9 億 73 百万円(同 6 億 25 百万円、同 55.8%増)と、全てにおいて期初計画をクリアすることができた。

特に営業利益率は 3.5%と、目標としていた 3%を初めて超えることができた。

これには円安の影響もある。期初計画で 1ドル 90 円の想定だった為替レートが、中間決算時点では 1ドル 97 円 75 銭となった。売上実績が期初計画を 12.2%上回ったうちの約 5%がその恩恵によるものであり、実力として伸びたのは残りの約 7%分とみている。

当第 2 四半期を概観すると、国内は、政府の経済政策・金融政策の効果を背景に円安と株高が進行しており、景気は回復傾向にある。海外は、米国経済は緩やかに回復しているものの、欧州では低迷が続いており、アジアでは、中国の成長は鈍化しつつあるが、ASEAN 諸国では堅調に推移している。

当社売上高は、前期第 2 四半期には国内 314 億円に対し海外 77 億円だったが、当第 2 四半期期には国内 325 億円に対し海外 114 億円と、海外のほうが伸び、特に北中米での上昇率が高かった。アジアも増収となったものの、自動車購入補助制度が終了したタイでは下振れの影響があった。

◆事業セグメント別概況

インテリア事業は売上高 174 億 74 百万円(前年同期比 6.0%増)、営業利益 2 億 60 百万円(同 77.5%増)となった。オフィスビルや商業施設、ホテル向けの業務用カーペットの物件受注が増加したことから、順調に売上を伸ばした。

特に循環型リサイクルカーペット「ECOS」は発売当初から非常に高評価を得ていたが、当期は円安の追い風があり、海外への輸出も増加した。また ECOS は、平成 25 年度「第 10 回 LCA 日本フォーラム表彰」において、奨励賞を受賞した。「環境効率を適用し、LCA 手法を活用して、リサイクル効果を数値として明確に社会に示し、水平リサイクルをプラス効果として社会にアピールした」点と、「製品の水平リサイクルという高い障壁に果敢に挑戦し、市場に着実に普及させた」点が評価された。同時受賞が名立たる大手企業ばかりの中での快挙であった。

カーテンにおいても、業界全体が厳しい状況にある中、主力の「U Life Vol.7」やディズニーシリーズなどが好調に売上を伸ばした結果、着実な伸びをみせた。

自動車・車両内装事業は、売上高 235 億 33 百万円(同 17.6%増)、営業利益 18 億 3 百万円(同 49.6%増)となった。自動車向けは、フロアカーペット、シート表皮材、天井表皮材等、自動車内装材をトータルに供給できるという利点を活かしシェアを伸ばしている。

国内では、各メーカー新規車種の受注がかなり伸びている上、経費削減も奏功して、営業利益を伸ばした。

海外でも、北米を中心に好調となり受注増となった。

鉄道・バスなどの車両向けは、市場規模は大きくないが、シート表皮材やカーペット、リサイクル性に優れたシートクッション材などを販売し、高い市場シェアを取っている。当期は日本初のクルーズトレインとして非常に人気のある「ななつ星 in 九州」に織物・カーペット・カーテン・緞通などを納入した。

この事業は、顧客の景気に左右される傾向があるが、現在は景気回復傾向にあり好調に推移している。

機能資材事業は、売上高 28 億 58 百万円(同 9.4%増)、営業利益 1 億 20 百万円(同 38.9%減)となった。中国で生産し日本で販売しているホットカーペットが、急激な円安進行の影響を受け、売上・利益ともに前年同期に届かず減収減益となったが、フィルター・消臭関連および建材・土木資材関連は好調に推移した。

◆今後の見通しと事業展開

2014 年 5 月期連結見通しについては、売上高 850 億円、営業利益 24 億円、経常利益 29 億円、当期純利益 18 億円と、期初計画を据え置いている。

過去 5 年間の業績の推移を見ると、東日本大震災のインパクトが非常に大きかった。それに起因して成長が鈍化したこともあったが、それでも当社は着実に業績を伸ばすことができおり、経営マネジメントとしては順調であると考えている。

2012 年 6 月より、「Global Evolution 2015」と題した中期 3 カ年計画を推進中である。これは、グローバル展開とオンリーワン商材の積極的な展開を基本方針とし、売上高 100 億円の増収と営業利益率 3%以上を目指すものであるが、2 年目の当期で目標を達成できる公算が大きい。インテリア事業は、今後も大好評をいただいている ECOS などのオンリーワン商材を主軸に、市場シェアの拡大と利益率の向上を目指していく。

自動車内装事業では、昨年後半に 2 カ国で新たな製造拠点を立ち上げた。1 つは日系自動車メーカーの増産・新設が見込まれるメキシコに、Suminoe Textile of America Corp.の 100%子会社として Suminoe Textile de Mexico, S.A. de C.V.(STM)を立ち上げた。もう 1 つはインドネシアに、同国ならびに ASEAN 地区向けの自動車用マットの生産拠点として PT. Suminoe Surya Techno (SST)を子会社として立ち上げた。

当期はこの 2 社を含め、合計 9 社 10 拠点でグローバルサプライヤーとして展開していく考えである。

また、十数年前からうたっている「K(健康)・K(環境)・R(リサイクル)＋A(アメニティ:快適)」戦略の一環として、再生エネルギー市場へ参入した。具体的には、株式会社中村超硬と合併で、中越住江 デバイス・テクノロジー株式会社を設立し、太陽電池向けシリコンウエハのスライス事業を昨年 9 月 1 日から開始した。

これは、中村超硬が生産する超細線かつ高品質なダイヤモンドソーワイヤでシリコンインゴットをスライス加工するものである。当社の太陽光発電パネルは、発電効率において国内トップレベルにあり、クリーンエネルギー事業の発展に大きく貢献するものと考えている。

昨年 9 月にスタートしたこの事業は、2014 年 5 月期の売上高を約 10 億円と見込んでいる。この分野は国内外で成長が期待されており、積極的に取り組んでいきたい。

(平成 26 年 1 月 29 日・大阪)

(平成 26 年 1 月 30 日・東京)

* 当日の説明会資料は以下の HP アドレスから見ることができます。

<http://suminoe.jp/ir/setsumeil/>